きょうようときょういくのままに ⑭

博物館　知的好奇心

東京学芸大学名誉教授　篠　原　文陽児

５月の薫風で心地よい、いえ、季節はずれともいえる蒸し暑い５月18日、東京はJR上野駅。公園口改札を出てすぐ目の前の交通信号を渡って上野公園に入っていく。先生に引率され、見るもの聞くものすべてに**知的好奇心**が刺激され、探究のスイッチON。無意識な中にも、ワクワク、ドキドキと、鋭敏な反応をしていた小学校の社会科見学のようすが、よみがえる。

５月18日は「国際博物館の日」。1977年に国際博物館会議（ICOM）が設け、この日とその前後に、世界中の**博物館**が記念行事を実施している。わが国では、北は北海道から南は沖縄県まで47都道府県に、5,690館の博物館施設がある（2015年10月現在）。2018年は、このうち、42都道府県の177館で、記念行事と記念イベントが開催されている。多くの館は国際博物館の日とその前後での開催であるが、愛媛県では９月３日まで、鹿児島県では８月28日まで、それぞれ記念行事等が継続されている施設がある。まだ、間に合う。

ともあれ、国際博物館の日に、国際的にも稀なほど博物館や美術館など多数存在し近隣地域の方々の誇りと憩いの場、上野界隈、その中心の上野公園内の東京国立博物館に足を運んだというわけ。そこでは、先ず、午前11時から30分間、本館地下の教育普及スペースで、ボランティア室アソシエイトフェローのK女史による記念ガイダンスに参加。表題は「博物館のしごとの裏側と今日のおすすめ作品」。しごとの裏側では、来館者が直接参加し体験できるワークショップやハンズオン、そして、最新のメディアであるバーチャルリアリティ（VR）技術を駆使した映像の準備に、細心の注意を払っているという。加えて、常設と特別および企画の各展示など、年に300回ほどの展示替えの際、展示室の明るさ、展示品等の設置の高さの決定など、研究成果をふまえたお話に興味津々。例えば展示物の高さは、来館者の平均身長を150、160、170各センチメートルとして決めているとのこと。一方、今日のおすすめ作品では、特に、本館１階15室の森鴎外の筆跡に耳がピクッ。1990年本協会のハイパーメディア教材「文京文学館」が思い出された。

記念ガイダンス終了後の午前11時半過ぎからは、メモしたガイダンスの内容を見ながら、今日のおすすめ作品を中心に、目と耳とカメラにも画像を焼き付け収めながらの見学。色鮮やかなサツキに囲まれた庭園での休憩を含め、濃密な約５時間。

新しい学習指導要領では、特に学校教職員には、限られた時間と空間そして人とモノと情報のマネジメントが求められている。すべての職業に働き方改革が喫緊の課題である。学校には、家庭と地域と協働し、安心と安全に注意を払いながら、子どもの目と耳を学校の外へさらに向かわせる企画と調整、そして、行動力が、いっそう期待されていると言ったら、お叱りを受けるだろうか。

蒸し暑かったこの日。帰りには、近くにある国際子ども図書館を左に見て10分ほど歩き、国立教育政策研究所の機関の一つ、生涯学習社会の実現を推進するための組織再編の渦中にある社会教育実践研究センター。ここに友人を訪ね、彼との久々の交流の時間。見学後、心がさらに満たされ、より充実した一日となった。